

2022 バステクフォーラム

2022年7月8日（金）大阪・舞洲スポーツアイランド

視察レポート

世界中の都市を結び、街を巡るバスは、市民生活になくてはならない公共の福祉財であり、経済性が重視される生産財であり、時に旅情を誘う趣味の対象ともなる乗り物です。株式会社ぽると出版が主催するバステクフォーラムは、最新の車両や装備が一堂に会するバスの総合イベント。首都圏を含めて通算20回目となった今回は、ジャパンプレミアとなるEV（電気自動車）バスやFC（燃料電池自動車）バス、EDSS（ドライバー異常時対応システム）などが揃い、運行事業者や熱心なファンの注目を集めました。本資料では、会場で目についた車両やアイテムをご紹介します。



●ECITY L10 10.5mEVバス (アルファバスジャパン)



EVの普及が進む中国のアルファバス製大型路線用EVバス。ボディはアルミ製で、日本国内のワンマンバスの構造要件を満たしており、このまま営業運行可能な仕様という。



出展車には後付けのEDSSも装備。

●F8シリーズ4ミニバス (EVモーターズ・ジャパン)



展示車のバッテリー総容量は114kWh。航続距離は290kmと謳う。

北九州市に本拠を持つEVモーターズジャパンが国内で開発し、中国で生産された日本向け小型EVバス。全長7mの車体はステンレス骨格+カーボンで軽量化を図る。



●F8シリーズ2シティバス (EVモーターズ・ジャパン)



こちらは10m級の大型路線用EVバス。同社では近い将来、日本国内でのEVの組立を計画しているという。



充電システムはCHAdeMO規格。



●オノエンスタ―9mEVバス

オノエンジニアリング傘下のアジアスタージャパンが輸入販売する、中国・ヤーシン社製の大型路線用EVバス。狭い街路でも取り回しやすい全長9m級で、ボディはアルミ製。一充電当たりの航続距離は約200kmとアナウンスされている。

●BYD J6自動運転EVバス（先進モビリティ）



前後の上方と下方に光センサのLiDAR（左写真）を備えるほか、ミリ波レーダーや超音波センサ、ステレオカメラやGNSS（衛星測位）アンテナなどで周囲を監視する。



7月に日本市場への乗用車の正式導入を発表した中国のEV大手、BYDの小型EVバスをベースに、東京大学系のベンチャー企業、先進モビリティが開発した自動運転システムを実装した実証用車両。自動運転のレベルはレベル2というが、当日のデモでは両手放しで走行して見せた。

●トヨタコースターFC仕様(中京車体工業)



車体側面にはコンセントを設け、外部給電も可能。車内は座席レイアウトを変更できるようにしている。



マイクロバスのトヨタコースターをFCV化した試作車。特装メーカーの中京車体からの出展だが、トヨタ本体のチームで開発。乗用車のMIRAIや大型バスのSORAの部品を可能な限り流用しているという。発電するFCスタックはエンジンがあった前席下に設置（上写真左）。高圧水素タンクはMIRAI用を4本（MIRAIは3本）床下に巧みに搭載（上写真右）。駆動用モーターもMIRAI用の130kW。

●FC路線バストヨタSORA（大阪シティバス）

オリンピックを契機に、東京地区では急速に配備が進んだFC路線バスだが、大阪市内の路線バスでは展示車の大阪シティバスが初の導入例という。



●アストロメガ2階建てバス (西日本ジェイアールバス)



2010年に生産終了した三菱ふそうエアロキングに代わる2階建てバスとして、2016年に上陸したベルギーのバンホール社製バス。JRバスグループでは5社が高速バスとして運用している。展示車は1階が4列（下写真左）、2階が3列シート。エンジンはスカニア製。



●LuxRea（ラクリア） 個室付き高速バス（全但バス）



兵庫県の全但バスが2路線で運行するハイグレード高速バス。三菱ふそうエアロエースの車内左側後方に、扉や空気清浄機の付いた完全個室を2室用意。通常運賃+1000円で利用できるという。

●ファン！バス（ジェイ・バス）



いすゞと日野の路線バスボディを製造するジェイ・バスによる、オリジナルバスの提案。いすゞエルガの後方の床面を330mm、ルーフを400mm高め、側天窓を設けて個性を付加。後付けの側方衝突警報システム「モービルアイ・シールドプラス」も装備（下写真右）。





●オゾン発生器ほか取付車 (坂本自動車工業ほか)

三菱ふそうエアロエースに、バス専用のオゾン発生器や後付けのモバイルアイ・シールドプラスなどを装着した仕様。コロナ禍で車内環境向上のニーズは高まっている。



●後付けEDSS付き日野ポンチョ(ナブテスコ)

運転手の体調不良などの非常時に、運転手や乗客のボタン操作で自動停車させるEDSS。この車両はナブテスコオートモーティブと城東自動車工場の共同開発による、後付けのEDSSを装着したデモ車。



●新フリーデザインシートカバー装着車(丸菱工業)



新車のシートを手掛けるメーカーによる、純正品質のシートカバーの提案。古い車両もリフレッシュできる。



●リフト付き日野リエッセIIハイルーフ(中京車体工業)

福祉車両の装備も年々進化している。ハイルーフ化と滑らかに動くリフト装着が特徴の日野リエッセIIである。



●新型エアロエース

(三菱ふそうトラック・バス及び大阪バス)



高速路線&観光バスでは定番のエアロエースは、2019年にフェイスリフトと安全装備の強化で魅力が向上。今回はメーカーのデモ車と、大阪バスの貸切車（写真）が出展された。

●エアロエースリニューアル車

(三菱ふそうトラック・バス)

メーカーの工場で施工したリニューアル車。約15年前の車両だが、内外装ともピカピカ。内装は右側半分（写真では左側）がリニューアル済み。



●ヒョンデユニバース・ベーシック/ヒョンデユニバース・観光仕様 (ヒョンデ・モビリティジャパン)



乗用車販売は一度撤退し、今年EVとFCVで再参入した韓国の現代（ヒョンデ）だが、バスの販売は継続していた。現在は全国で約800台が運行中で、サービス網の充実や信頼性向上も進んでいるという。写真左のベーシックは鹿児島交通で路線運行中。観光仕様はEDSS（写真右）標準装備の最新車。

●朝ドラ劇中車両GMCバス



沖縄が舞台のNHKの朝ドラ、「ちむどんどん」に登場した60年代のGMCのバス。

